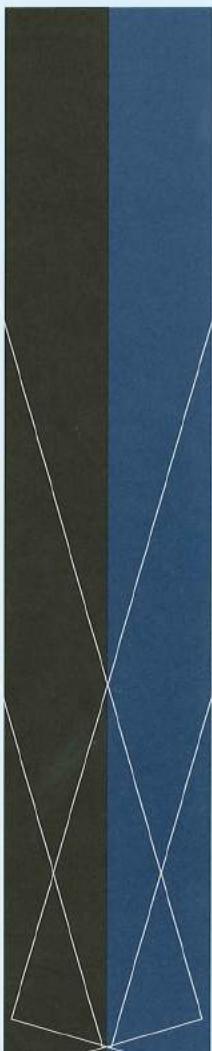


CSデザイン
学 生 賞

2 0 0 6

www.design-awards.jp



CSデザイン

学生賞

2006

www.design-awards.jp

- 自由課題
- 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン
- 車両のビジュアルデザイン

直前の

5.5倍

全国平均は4.1.4倍

-1. 8m

-1. 6m

-1. 4m

-1. 2m

-1. 0m

-0. 8m

どうですか？身長でも測ってみてませんか？

ちなみに僕は3m!

ん？僕ですか

http://

このサイト



審査員講評

新鮮なアイデア

永井一正

CSデザイン学生賞も団を重ねるにつれて、新鮮なアイデアやビジュアルが生まれ、充実してきた。今も東京を初め各都市では建設ラッシュが続いている。それだけに都市における環境の重要性が指摘され、そのごく一部であるにせよ、工事現場仮囲いを美しく楽しいものにするのは視覚的な潤いをもたらすものである。また一地方に限られているとはいえ、そこを走る路面電車のビジュアルデザインは大切な景観となる。

この二つの課題に取り組み自由な表現を可能にし得るカッティングシートは、材質・色彩等ますます豊富になりその可能性を支えている。今回自由課題から金賞になった松本明子さんの仮囲いはCSミラーを使用し、今までになかった不思議な効果をあげている。工事中のイラストレーションをシルエットにしてミラーを使うことにより街の風景がその中に映りこみ、それが変化するという新鮮な視覚を与えてくれる。場所によっては車のヘッドライトが反射するという意見も出たが、例え前が公園などで緑が映えれば素敵である。

部門賞の大野沙耶香さんの仮囲いは、黒と白の強いコントラストのなかで、漫画の中に登場するシンプルな感情表現を描くことによって、見る人々の感情を刺激し、何か生き生きとした気持ちになる。

佳作の渡辺隆彦さんの仮囲いは、白地に細い数本の赤い糸が張られ、影によりそれが浮いて見えるという、とてもセンスを感じるデザインである。ここで恋人たちが待ち合わせをすれば素敵だと思う。同じく佳作の朝田泰帆さんの仮囲いは周囲とは異なる風景が写真によって突然表れ驚かされる。

部門賞の浜崎祐貴さんの路面電車は、黒・白と両面が異なるデザインで、その電車がずれ違うときが面白い。ピアノの鍵盤は風景の移り変わりによって色々な音楽を感じさせてくれそうだ。佳作の野崎猛さんはグリーンの木の葉で自然を感じさせてくれる。いずれも力作で楽しめた。

(グラフィックデザイナー)

金賞

自由課題——工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン







審査風景



金賞

松本明子／横浜美術短期大学 造形美術専攻
自由課題——工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

作品コンセプト

「再認識」仮囲いで遮られた空間の中には、働いている人とその風景がある。私たちが知らない仮囲いの中をシルエットで表現し、周りの風景を取り入れることで普段あまり気がつかない街の様子を再認識することができるのではないかと考えた。場所や時間・見る位置などによって表情はさまざまに変化し、同時に通る人を映し出す鏡のような役割もはたす。日常で見かける仮囲いを通して、道行く人々の瞳で感じてもらいたくデザインした。

仮囲いデザインの進め方ふたたび

今年の審査会を終えて、若い力の溢れる作品とそうでないものとに二極化されているように感じた。仮囲いであれ車両デザインであれ、対象をしっかりと把握しているか否かで、作品の力が歴然と違ってくる。一般的に使用される工事現場の仮囲いは、巾50cm、高さ3mの白いフラットパネルを横に連続して連結させた「3mの白い壁」である。応募用紙は、空も仮囲いも一体化されているが、仮囲いが風景の中でどう見えるか実際の工事現場で体験してもらいたい。電車がどういう風景を走っているか、実際の現場に行くくらいの意欲が必要だ。そのリアルな体験・

挑戦的なデザインを

「環境との関係」に意識を向かわせた作品が結果的に高評価を得たものに多く含まれたと感じます。金賞の松本さんの作品はミラーのシートによってその場所に写る風景や時間や通り過ぎる人や車の移り変わつて行く風景を取り込む事で「そこにしか無い」仮囲いをつくり出しました。また工事現場の風景を概念化、簡略化したパターンとして組み込む事で、抽象的になり過ぎずにグラフィカルに着地させています。新しいアプローチである事にもまして、結果として楽しい画面が出来上がっている事が高評価につながったと思います。

佳作の朝田さんの「横断歩道」は全く違う場所のリアルな風景、しかも多くの人が見

感覺がものづくりの源になって、新しいアイデアや表現を生むのだと思う。

金賞の松本さんの作品は、ミラーのカッティングシートの特性を活かした工事風景のデザインで、その工事風景が主に見えたり、ミラーに写りこむ回りの風景が主に見えたりする。ミラーの効果と光と影で、仮囲いの表情が様々な変化していくというコンセプトが素晴らしい。また、松本さんはコンセプトを伝えるために、何枚もミラーに写りこむ都市の表情を提出している。新しいアイデアと熱い思いが明確に伝わってきて、全員一致で金賞に選ばれた。ただし、実際に制作する場合は、ミラーへの、

車や自転車のライトの反射や誤視を防ぐために、立地によって、その大きさやデザインに充分に配慮する必要があるだろう。

部門賞の大野さんの作品には不思議な力がある。白黒で、言葉を排し、漫画で使われる視覚的な感情表現のみのデザインでありながら、見る人によって、色々なことを感じることができる作品になっている。

佳作の渡辺さんの作品はやわらかい緊張感がある。赤い糸と影のみで構成した潔さに心惹かれる。ただし、糸と影のディテールに徹底的にこだわって、糸に感情移入できるところまで描ければ、更に良かったと思う。

工藤青石

た事のある表参道という場所の写真を用いる事で不思議な空間感をつくりだしています。画像を変型して少しアリティーが薄まっている事などの要素がプラスに働いています。

大野さんのマンガのコマ割をモチーフにした作品は、見なれたマンガとのスケールギャップと、結果として生まれた白と黒のモダンな印象とが相まって、新鮮な存在感を出しています。

車両部門の野崎さんの木の葉をモチーフとしたデザインは、この課題に対する提案としてシンプルな色面分割や幾何学パターンが大半を占める中で、パターンであってもそこに風景と馴染む有機的な要素を含もうとしている事に好感を持ちました。

全体を通して感じた事の一つは、もっともっと挑戦的なデザインがあつても良いのではという事です。こぎれいにまとまりの良いものでおさまってしまうのはもったい無いと思いま。もちろん公の空間に大きな面積で何かを塗するという事に対して、その結果が生み出す影響について充分に考えなくてはなりません。デザインは常により良い状況作りに貢献する役割があります。しかし皆さんは学生なのですから、デザインについてまだ何も分からぬも同然です。今考えられる、今表現出来る事を精一杯に表させたエネルギーをもつと見たいと感じます。

佐藤卓

車両部門・総評

路面電車のビジュアルの審査をする前に、まず課題である車両が現在どのようなビジュアルでどんなところを走っているのかを映像で拝見した。車両の型は新しいものから古いものまでいくつかあり、それが同時に街を走り回っている状況であることを把握した。今回のビジュアルは3000型という古い型を想定して公募されている。

映像の中に新しい型はもちろん走っているのだが、その中で「これはいい!」と思える車両がひとつだけあった。それは今回の課題である3000型で、施されたビジュアルは全体が真っ黒で、そこに小さく文字があしらってあるだけ。なんということはない真っ黒の

ビジュアルは、古い車両の丸いかわいらしいフォルムと相まってとても良かったのである。古いので表面がやや凸凹した上に、ペンキのような質感の塗料で塗られた車両に見える。装飾的な要素はほとんど見あたらない。それは自分がもしこの街に住んでいたらこの車両を気に入るだろうと思わせた。

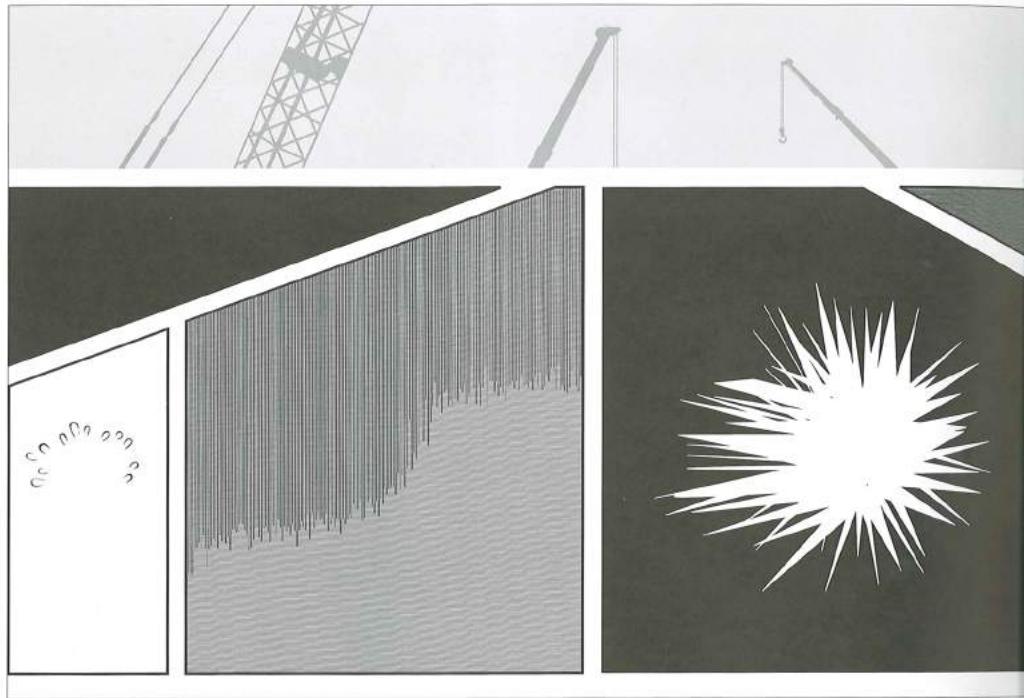
そして、審査に入る。ほとんどの作品が車両の表面をただのキャンバスとしてしか捉えていなかった。街を走っている時に自分が走っていてほしいビジュアルを考えればいいと思うのだが、どうも自分の作品としてしか考えられない学生が多いようである。つまり客観的になれない学生が多いということかもしれない。

路面電車の表面デザインは自己主張の場ではない。街を走るわけだから、公共としての意識が大切である。そんな中にあって部門賞の浜崎祐貴の作品は、デザイン言語を抑えかつユニークなアイデアのある作品として高く評価された。左右の地色が反転しているアイデアも秀逸である。街を走っていて同時に両面が見えることはないから、ノイズにもならない。

このような課題に取り組む時には、ただ面白おかしいビジュアルを考えるのではなく、その車両が走っている街のために何をすることが良いことなのかを深く考察してほしい。

部門1 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

部門賞／佳作



1

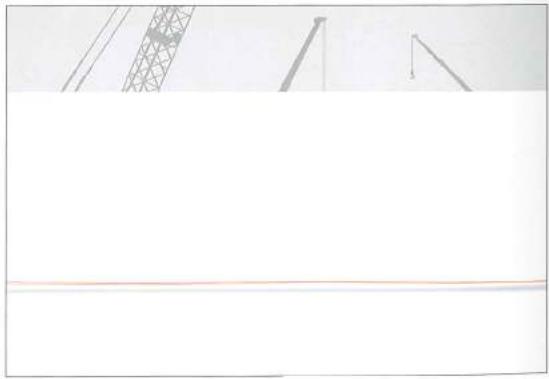
1 部門賞

大野沙耶香／東京コミュニケーションアート専門学校

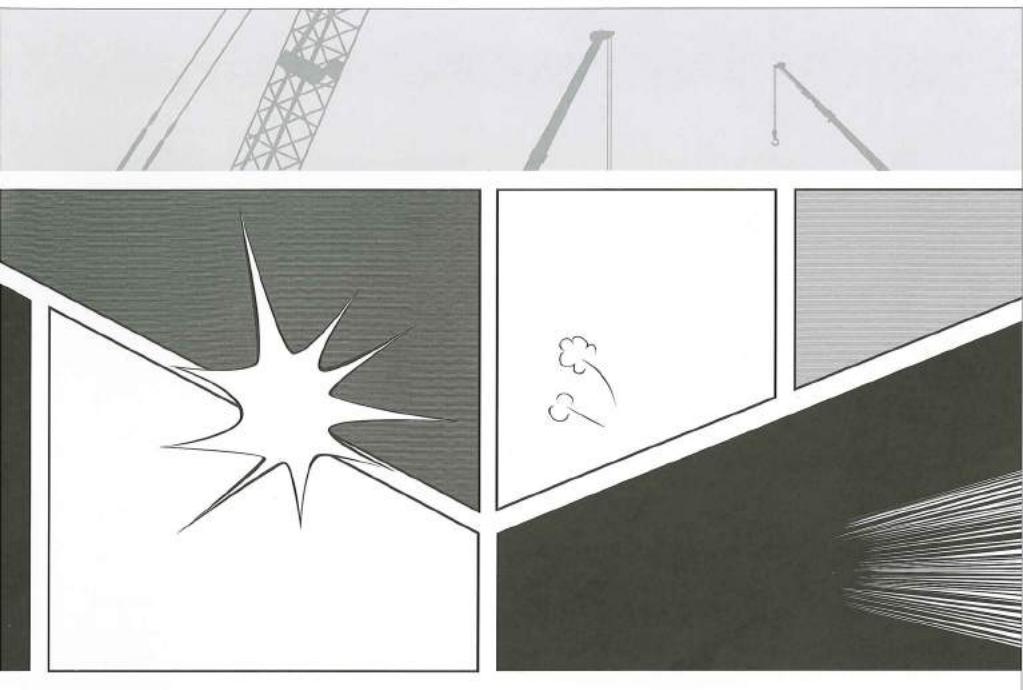
グラフィックデザイン専攻

作品コンセプト

街中で物言わざたたずむ仮囲い。そんな仮囲いだからこそ、そこで人と人がハッピーになれるようなコミュニケーションが生まれると良いのではないかと考えました。漫画の中で使われる感情を表す表現を使い、そこに人が関わることで完成するコマにしてあります。漫画という親しみのあるものを使うことで、工事中からその場所に興味を持ってもらえるのではないかと考えます。当たり前の日常の中にこの仮囲いを通して楽しみが見いだせたら素敵なのではないかと思います。



2



2 佳作

渡辺 隆彦／武蔵野美術大学 基礎デザイン学科専攻

作品コンセプト

「運命の赤い糸」がその場にあることで、そこですれ違う人、近くにいる人との関係に、今までとは違う「何か」を感じるのではないか、という考え方で制作しました。

3 佳作

朝田 泰帆／東洋美術学校

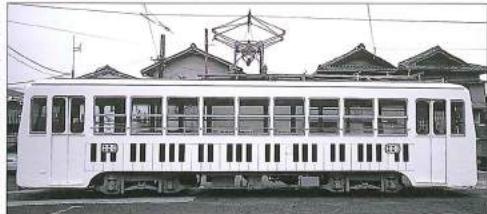
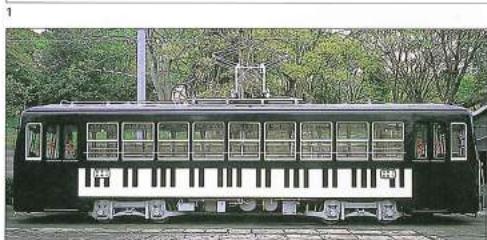
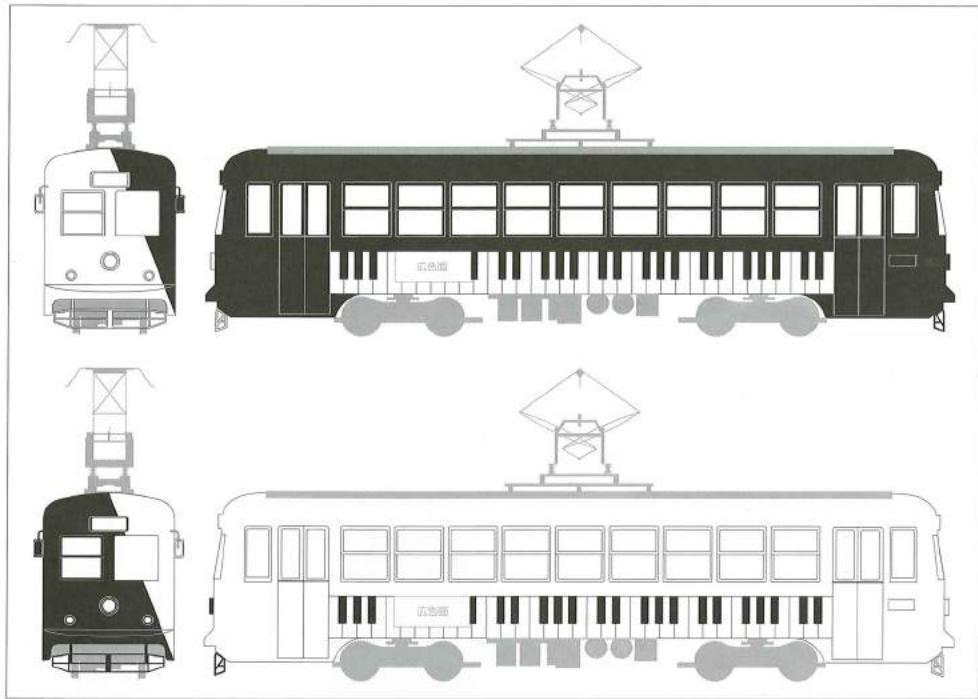
視覚伝達科 デジタルグラフィック科専攻

作品コンセプト

横断歩道シリーズ——いきなり現れる街の風景

部門2 車両のビジュアルデザイン 路面電車「岡山電気軌道3000型」岡山市

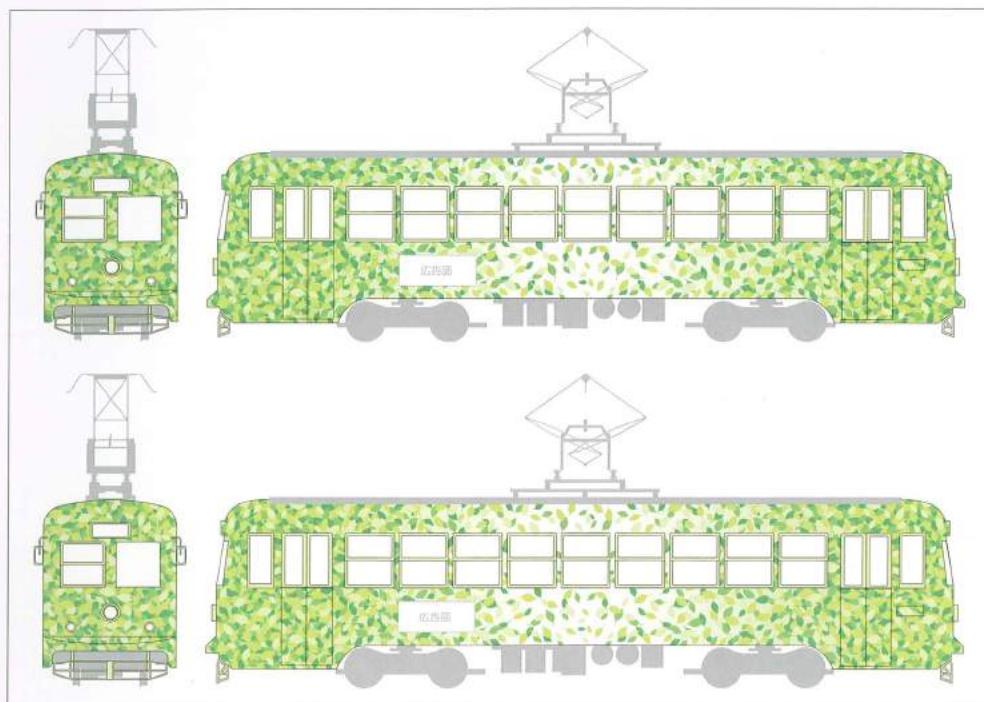
部門賞ノ佳作



1 部門賞

浜崎祐貴／大阪芸術大学 デザイン専攻

作品コンセプト
走る度に子どもに指をさされるような
親しみを持たれる電車を作りたいと思った。
かといって絵を描いたり、幼稚な色で逃げたくはなかった。
なぜならば、街には大人も住んでいるからだ。
子どもは本来電車が好きだ。
僕も好きだった。
なぜ好きなんだろう。
僕の場合、電車は色々な音を奏でるから好きだった。
ガタンゴトンは勿論。



2

2 佳作

野崎 猛／学校法人 専門学校 東京ネットウエイブ
デジタルクリエイティビティビジネス科 CGデザイン専攻

作品コンセプト

自然の中を電車が駆け抜けるイメージ。
町の中を走るので色を少し抑えました。

加速する音、風を切る音、
乗客の話し声、笑い声、
街の音、駅の音...
電車は楽しい音がいっぱいなのだ。
そこから楽器にしようと考えた。
長く四角く光沢のある電車のボディを見つめていると
ピアノに似ていると感じた。
音符なんて説明的なものはいらない。
鍵盤さえあれば、こいつが走る度、
街に楽しい音符が飛ぶと思った。

■審査員プロフィール■



永井一正

1929年大阪生まれ。1951年東京芸術大学彫刻科中退、大和紡績を経て、1960年日本デザインセンター創立とともに参加。同代表取締役を経て、現在、最高顧問。

主な仕事：札幌冬季オリンピック1972、沖縄海洋博1975など国際イベントの公式マークデザインが指名コンペにより正式採用される。諸団体のシンボルマーク、各種企業のCIデザインを多数手がける。

受賞：日宣美会賞(1966)、朝日広告賞、東京国際版画ビエンナーレ展東京国際近代美術館賞(1968)、日本宣伝賞山名賞、毎日デザイン賞(1983)、東京ADC会員賞・企画最高賞(1992)・グランプリ(1996)、毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞(1988)、通産大臣デザイン功労者表彰(1995)、亀倉雄策賞(2000)、勝見勝賞(2003)。海外では第1回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞(1966)はじめ同銀賞、芸術アカデミー名賞、ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ金賞・グランプリ(1988)、第1回モスクワ国際ポスター・トリエニア・レ・グランプリ(1992)、メキシコ国際ポスター・ビエンナーレ第1位、ヘルシンキ、ザグレブ、ウクライナ、ホンコンの国際展でグランプリ。紫綬褒章(1989)、勲四等旭日小綬賞(1999)。

展覧会：富山県立近代美術館、ワルシャワ近代美術館ポスター館、東京国立近代美術館フィルムセンターなどで個展。

作品が東京国際近代美術館、京都国立近代美術館、富山県立近代美術館、姫路市立美術館、ニューヨーク近代美術館、ドイツ国立抽象美術館などにパーマネントコレクション。

著書：『アートディレクション』(美術出版社)、『永井一正のポスター』(河出書房新社)、『永井一正の世界』(講談社)、『永井一正デザインライフ』(六帖社)。

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会・理事)、日本デザインコミッティー(理事長)、東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))。



菊竹 雪

1958年東京生まれ。1981年日本女子大学住居学科卒業。

(株)日本デザインセンターを経て、1990年(株)コンパッソ設立。

1994～95年文化庁派遣芸術家在外研修員として、Royal College of Arts在籍。

法政大学工学部建築学科講師。

主な仕事：新丸ビル2005.5～10、講談社、原宿T's、YM Square Harajuku、島根県立美術館、江戸東京博物館、イタリア文化会館などの工事現場版面UVデザイン。札幌JRタワーの駐車場アートワーク。東京電力の社モリバーションでは始めて建物外観をデザインするなど、建築環境とグラフィックを結び付ける「環境グラフィックデザイン」という新しいデザインの分野に取り組んでいる。

受賞：日本サインデザイン賞、JCDデザイン賞、日本ディスプレイデザイン賞、通商産業大臣賞、Gマーク賞、CSデザイン賞など。

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会)、AACAA(社)日本建築美術工芸協会)、D&AD(British Design & Art Direction(英))。



佐藤 卓

1955年東京生まれ。1979年東京芸術大学デザイン科卒業、1981年同大学院修了。

株式会社電通を経て、1984年佐藤卓デザイン事務所設立。

主な仕事：「ニッカ・ビュアモルト」の商品開発から始まり、「ロッテ・ミントガムシリーズ」「ロッテ・キシリトルガム」「大正製薬・ゼナ」「明治おいしい牛乳」「NTTドコモ FOMA P701iD」等の商品デザインを手掛けるほか、「BS 朝日」「金沢21世紀美術館」「首都大学東京」「三宅一生デザイン文化財団」等のVIデザイン、NHK教育「にはんこであそぼ」の企画メンバー及びアートディレクター、大量生産品をデザインの視点で解剖する「デザインの解剖」プロジェクトなどを手掛ける。

著書：『SKELETON』(六帖社)、『デザインの解剖』シリーズ(美術出版社)など。

主な展覧会：『NEO-ORNAMENTALISM』展(1990) アクシス・ギャラリー、「デザインの解剖」展(2001～) 松屋デザインギャラリー、「都市に潜むルーメン」展(2002) ギャラリー「巷房」、「デザインの原形」展(2002) 松屋銀座8階大催場、「INVISIBLE DESIGNER」佐藤卓展(2002) トロント日本文化センター、「ANATOMIA DO DESIGN a obra de Taku Satoh」佐藤卓展(2002) サンパウロ日本文化センター、佐藤卓展《PLASTICITY》(2004) ギンザ・グラフィック・ギャラリー。

主な受賞：毎日デザイン賞、東京ADC賞、JAGDA新人賞、東京TDC賞、ニューヨークADC賞、日本パッケージデザイン大賞金賞、Gマーク賞など。

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、東京TDC(東京タイポディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会)、日本デザインコミッティー、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))。



工藤吉石

1964年生まれ。

1988年東京芸術大学卒業、資生堂入社。

1992年から1996年、同社バリ勤務。

2005年資生堂を退社し、平野敬子とともにコミュニケーションデザイン研究所を設立。

CDL(Communication Design Laboratory)として活動を開始した。

現在東京芸術大学非常勤講師。

主な仕事：「SHISEIDO MEN」「キオラ」「イフサ」など化粧品のプロダクトデザイン、パッケージデザイン。資生堂本社ウインドウディスプレーなどの空間デザイン。キオラブランドにおけるプロモーションを含むブランド全体のクリエイティビティディレクション。キオラユニバーソーショップの空間デザイン。銀座ハウスクオシセイドウのインタラクティブな装置「アーカイブ・テーブル」のデザイン。受賞：毎日デザイン賞、米国建築家協会ニューヨーク最優秀デザイン賞、ID AWARD、東京ADC賞(1998、1999)、日本パッケージデザイン賞大賞(1995、1999、2001、2005)、ディスプレイデザイン賞(1992～2001、1992は大賞)、SDA賞(1997～2001)、CSデザイン賞大賞(1998、2000)、JAGDA新人賞、ニューヨークADC賞銀賞など。

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会)、JPDA(社)日本パッケージデザイン協会)。

CSデザイン学生賞 2006 [募集要項]

「色を通じて社会に貢献したい」と願う中川ケミカルは豊かな環境づくりを目的に1982年CSデザイン賞を設けて優秀作の顕彰につとめてきました。1998年CSデザイン学生賞を併設して、環境デザインをテーマに選び、学生作品を広く募集しています。

募集作品

- 装飾用シート<NOCSノックス>の使用を前提としたデザインとします。
(1)工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン
(2)車両のビジュアルデザイン…路面電車「岡山電気軌道3000型」(岡山市)
(3)自由課題(平面・立体を問わず実験的な作品)

審査の方法

- (1)(2)は規定のデザインフォーマット上に作画した「デザイン」の審査とします。
(3)は特に規定はありませんが、<NOCSノックス>の使用を前提としたものに限ります。

応募資格 応募期間中に、在学の方に限ります。

応募の方法

Webサイト「CSデザイン学生賞」(www.design-awards.jp)に掲載されている応募要項にもとづき、必要事項を添付して、データ送信または郵送(MO、CD-R、手書き作品)してください。

- 作品形態 規定のデザインフォーマットに進じたデータ、またはA3判の用紙とします。工事現場用仮囲いのビジュアルデザインのサイズはA3判2枚横つなぎを最大とします。
- 表現方法 グラフィックソフトによる作画、または手書きの作画。
(1)(2)はWebサイト(www.design-awards.jp)に掲載されているフォーマットをダウンロードしてください。または、募集係よりお送りします。
グラフィックソフトはアドビ社の「Illustrator」限定。
バージョンは8.0～10.0(保存形式は8.0)
- 色指定 装飾用シート<NOCSノックス>による色指定とします。
Webサイトにてシート色による着色ができるデジタルカラーチャートを無償提供します。(着色はNOCSのみCS200での色指定は不可)
現物シートの色見本が必要な場合は募集係よりお送りします。

審査員

永井一正(審査委員長) 菊竹雪 工藤青石 佐藤卓 (敬称略)

協賛 日経デザイン

協力 岡山電気軌道株式会社

後援団体

- 社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
社団法人 日本商環境設計家協会
社団法人 日本サインデザイン協会
社団法人 全日本屋外広告業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
NPO法人 日本タイポグラフィ協会 (略不同)

主催 株式会社中川ケミカル



株式会社
中川ケミカル

本社：〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-1-6 TEL 03(5835)0341(代) URL <http://www.cs-nakagawa.com>
大阪営業所：TEL 06(6543)2861 福岡営業所：TEL 092(431)3013 札幌営業所：TEL 011(736)4788